

2024 年度 事業報告書

事業実施の方針

- ・「困った時はおたがいさま」の心で助け合い、助け合いの輪を地域に広げる
- ・一人一人の困難に向き合い、その人がその人らしく生活できるよう、心に寄り添う支援を行う
- ・世代を超えた人と人との絆を大切に、互いに学び合い、支え合いながら、生きがいや自己の実現につなげる

2024 年度 目標

「出会いとチャレンジを楽しみながら、一人一人の可能性を広げよう !!」

2024 年度の取り組み・成果・残された課題

- ・前年度のワークショップで検討したラソプラザの新メニュー「おむすび+」が5月にスタート。また、グリーン・ラソでの「ひと・はこ文庫」の企画や本棚作りなど、地域の方に参加していただきながら、より様々な層の方に関わっていただく取り組みを行った。
- ・在宅で支援させていただいていた方々の施設入所が非常に多く、特に訪問系事業の件数や収益の減少につながった。新規のご依頼も一定数あるが、介護報酬の低い支援や福祉有償運送、たすけあい事業への依頼が多く、大きな収益増にはつながらなかった。
- ・制度改正の年であり、介護保険や障がい福祉の単価が下がったことも、減収の大きな要因となった。
- ・最低賃金の上昇に伴い、103万、130万の壁のある方は、仕事をしたくても制限せざるをえない状況となり、人手不足にもつながった。
- ・3年目を迎えた障がい者計画相談事業等は、新たな相談支援専門員を迎え、徐々に受けられる件数も上がってきた。町内の相談員が少ない事情もあって、新規の依頼も多く、ニーズの高さがうかがえる。相談事業は、出会いや福祉の窓口につながることから、今後も大切な事業として位置付けていきたい。

2025 年度 事業計画書

2025 年度 目標

「声をきく」

ご利用者さんの声、活動者さんの声、ご支援くださる方の声、地域の皆さんの声、小さな声にも耳を傾け、声にならない声にも耳を澄ませて、皆さんに寄り添える絆でありたい。

I. 特定非営利活動に係る事業

たすけあい

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

現行の公的制度では対応ができない家事援助・身体介護・話し相手・子育て支援・代行などの在宅支援や、家で一人では心配な方などに、気軽に通える場の提供などを行う

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 50 人(▲3 人) 【実施日】 通年随時 年間 2,271 件(+138 件)

【受益者】 絆会員 105 人(▲9 人) 【事業収益】 4,961,429 円(+1,128,181 円)

2024 年度 目標

『制度ではできない部分（ハザマ）の支援を担うことができるよう、関係機関と連携しながら柔軟な対応を心がけていく』



活動内容・成果・残された課題

- ・介護保険などの制度ではできない同居家族の支援等、制度と組み合わせてご利用していただく活動も増えている
- ・また、期間が限定される児童課委託の子育て支援の後も、引き続き支援を希望されるご家庭に入らせていただくこともあった
- ・通院時の付添い、家の片づけ、大掃除や草取り、ペットの世話など、制度のハザマとなる支援の要望も多く、特に通院付添いは長時間にわたるため、人員の確保が困難であり、課題となっている

事業計画

【従事者人数】 絆会員 53 人 【実施日】 通年随時 年間 2,500 件

【受益者】 絆会員 110 人

2025 年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』

- ・地域の皆さんの困りごとに柔軟かつ迅速に対応できるよう、態勢を整える

移送サービス（福祉有償運送）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：移送サービスに関する事業

【実施場所】東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 病院、施設等

事業概要

通院や買い物、社会参加など、外出の際に公共交通機関を利用して出かけられない方へ、福祉有償運送サービスを行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員 41人(+2人)

【実施日】通年随時 年間 4,892件(▲330件)

【受益者】絆会員のご利用対象者 205人(+1人)

【事業収益】10,580,507円(▲11,133円)

2024年度 目標

『定期的な講習会や意識啓発を実施し、乗車するご利用者からも地域住民の方からも信頼される運転を心がける』

活動内容・成果・残された課題

- ・ケアマネージャーを通じて、通院のために移送サービスを利用したいという依頼が引き続き多く、絆のサービスを使うきっかけにもなっている
- ・使用する車両の内、個人車両の登録車数減少と法人車の老朽化が進んでおり、車両の手配に苦労した
- ・今後も増え続けるであろう移送サービスのニーズに応えるため、人員および車両の確保を含め、安心して乗車していただける質の高いサービスを目指す



事業計画

【従事者人数】絆会員 42人

【実施日】通年随時 年間 5,200件

【受益者】絆会員のご利用対象者 200人

2025年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応してく』

- ・多くのニーズに対応できるよう、福祉有償運送の有資格者の増員を目指す
- ・ひやりはっとの報告や共有により、安全意識を高めて質の高い移送サービスを提供する

訪問介護（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号訪問事業
【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 47人(+1人) 【実施日】 通年随時 年間 10,359件(▲891件)
【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 174人(▲7人) 【事業収益】 36,242,830円(▲3,040,518円)

2024年度 目標

『気づきや困り事は発信・相談～チームで関わり連携強化』
『皆が仕事しやすい、落ち着いた職場環境を』



活動内容・成果・残された課題

- ・事例検討を各サービス提供責任者が毎月開催し、ご利用者の様子や困り事を共有することで、課題や目標を明確にできた。今後も継続して開催していきたい
- ・在宅支援を実施していたご利用者の施設入所が多く、件数減の要因となった
- ・介護度の高いご利用者の支援が減り、新規のご利用者は介護度の低い方が多いため、収益は大きく減少したが、要支援者や通院支援等の受け皿としてのニーズを実感している
- ・今後は電子化をより活用し、外部の関係機関とも情報を共有していきたい

事業計画

【従事者人数】 絆会員 50人 【実施日】 通年随時 年間 11,000件
【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 180人

2025年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』
・サービス提供状況やご利用者のサービスへの要望や満足度を定期的にモニタリングし、ケアマネジャーへの報告を密にしていく

子育て支援ヘルパー（児童課委託）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町 ご利用者宅 または 病院等

事業概要

妊婦または乳幼児のいる母親が、病気などで家事・育児が困難な際にヘルパーを派遣し、子育てを支援する

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 15人(+3人)

【実施日】 通年随時 年間 547件(+320件)

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 21人(+9人)

【事業収益】 2,212,100円(+1,241,900円)

2024年度 目標

『支援者同士のコミュニケーションを密にし、統一したサポート体制を築く』

『随時児童課とも情報共有し、支援終了後も安心して子育てができるよう橋渡し役となる』

活動内容・成果・残された課題

- ・年間を通じて一定のご利用者数があり、支援内容としては食事づくりの依頼が多かった
- ・児童課との連携のなかで、直接支援するヘルパーの声を伝え、期間延長などの支援継続につながったケースもあった
- ・新たなヘルパーも増員して体制を整えたので、新しい支援者も安心して活動できるよう、支援者間の情報交換の場を設けたい



事業計画

【従事者人数】 絆会員 15人

【実施日】 通年随時 年間 550件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 20人

2025年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聞き取り、対応していく』

- ・子育て支援ヘルパーの情報交換会を開催し、安心して活動できるようサポートする

障がい福祉（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障がい福祉サービス事業（居宅介護・重度訪問介護・同行援護）

【実施場所】東浦町及び近隣市町のご利用者宅

事業概要

その人がその人らしく暮らし続けるために、他機関と連携を図りながら、気持ちに寄り添った支援をチームで行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員 43人(▲7人)

【実施日】通年随時 年間 3,708件(▲928件)

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 32人(▲6人)

【事業収益】20,624,794円(▲3,172,859円)

2023年度 目標

『気づきや困り事は発信・相談～チームで関わり連携強化～』

『皆が仕事しやすい、落ち着いた職場環境に』



活動内容・成果・残された課題

- ・新規の居宅サービスご利用者は少なく、既存のご利用者が65歳を迎え障がい福祉から介護保険に移行するケースもあった
- ・在宅支援を実施していたご利用者のグループホーム等への入所が続き、件数および収益減の要因となった
- ・事例検討を各サービス提供責任者が毎月開催し、ご利用者の様子や困り事を共有することで、課題や目標を明確にできた。今後も継続して開催していきたい

事業計画

【従事者人数】絆会員 50人

【実施日】通年随時 年間 4,500件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 35人

2024年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応していく』

- ・研修や事例検討により、個々の障がいや環境に寄り添った支援を実施する

移動支援（ヘルパーステーション 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 または 外出先

事業概要

ご利用者の意思を尊重し、気持ちに寄り添いながら、その人らしく過ごせる余暇支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 48 人（▲3 人）

【実施日】 通年随時 年間 1,442 件（▲41 件）

【受益者】 絆会員のご利用対象者 81 人（▲2 人）

【事業収益】 11,034,909 円（▲1,289,103 円）

2024 年度 目標

『気づきや困り事は発信・相談～チームで関わり連携強化～』

活動内容・成果・残された課題

- ・グループホームの世話人や、居住サポートセンターとの担当者と移動支援に関する意見交換の場を設け、課題となっていることや互いの要望を確認することができた。今後も継続して行っていきたい
- ・移動支援の計画書を見直し、各ご利用者の計画が適切かどうか、改めて再考した
- ・土・日曜日の依頼が多く、すべての依頼に対応しきれない状況。引き続き土日に動ける活動者の発掘が課題である



事業計画

【従事者人数】 絆会員 50 人

【実施日】 通年随時 年間 1,500 件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 85 人

2025 年度 目標

『寄り添う気持ちを忘れず、小さな声も聴き取り、対応してく』

- ・活動者が主体的に活動できるよう、情報の共有や事前の情報提供をしっかりと行う

ごみ出し支援（環境課委託）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：在宅福祉サービスに関する事業

【実施場所】 東浦町 ご利用者宅

事業概要

同一世帯で65才以上の方、もしくは避難行動要支援者名簿に登録されている方を対象に、1回50円で、燃えるごみをご自宅からごみステーションまで運び出す、ごみ出しの支援

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 15人(▲1人)

【実施日】 毎週火・木曜日 朝 年間 2,600件(+186件)

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 73人(+7人)

【事業収益】 1,434,125円(+248,040円)

2024年度 目標

- ・ご利用者に満足していただける活動を円滑に素早くできるようにする
- ・身近な地域での活動者発掘を継続する



活動内容・成果・残された課題

- ・施設入所等による中止もあったが、受益者が増えていることから、この事業が住民に必要とされ、ケアマネージャーにも活用されていることがわかる
- ・一軒当たり50円の謝礼ながら、従事者の皆さんが責任感を持って取り組んでくださっている
- ・引き受けてくださる従事者の数が増えておらず、開拓が課題である
- ・今後も、以前作成した「緊急時対応マニュアル」を活用しながら、状況を判断し、割り当てなどを行っていきたい

事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 18人

【実施日】 毎週火・木曜日 朝 年間 2,760件

【受益者】 東浦町内ご利用対象者 75人

2025年度 目標

ご利用者の都合に合わせ、詳細を相談しながら、ゴミ回収や集金等を行う

通所介護（デイサービスセンター 絆）

【事業名】特定非営利活動に係る事業：介護保険法に基づく居宅サービス事業、第1号通所事業

【実施場所】地域たすけあいセンター 絆

事業概要

自己選択、自己決定の仕組みを大切に、ご利用者一人一人の意思を尊重し、生きがいのある楽しい1日になるよう支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員 34 人（±0 人）

【実施日】月～金曜日 年間 4,716 件（+114 件）

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 58 人（▲7 人）

【事業収益】40,981,773 円（▲376,346 円）

2024 年度 目標

一人ひとりのチャレンジを 楽しみや喜びにつなげる

活動内容・成果・残された課題

- ・自己選択・自己決定のプログラムや少人数で行う教室を充実させ、皆さんがやりたいことにチャレンジできる機会が増えた
- ・ご利用者が様々な教室の先生となり、得意なことを活かせた
- ・計画書の作成や他機関とのつながり、新メニューの開発等、スタッフで役割分担し、積極的に取り組むことができた
- ・今後もスタッフの連携や協力を大切にし、ご利用者が安心して、楽しいデイサービスに通うことができるよう体制を整える



事業計画

【従事者人数】絆会員 35 人

【実施日】月～金曜日 年間 4,800 件

【受益者】東浦町及び近隣市町の方 60 人

2025 年度 目標

心の声を聴き はじめの一歩へ

生活介護（さくさく工房 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障がい福祉サービス事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

- ・日常的に介護を必要とする方に対して、日中活動を行う
- ・自己選択・自己決定を大切にし、ご利用者の気持ちに寄り添う支援を行う

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 27人(±0人)

【実施日】 月～金曜日 年間 2,302件(▲121件)

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 27人(+1人)

【事業収益】 25,253,636円(▲2,065,521円)

2024年度 目標

楽しみ、そして未来を話そう みんながあなたの応援団



活動内容・成果・残された課題

- ・さくさく工房絆を卒業し、新たな生活を送っている方をお招きして、グループホームでの生活や、現在の仕事内容、休日の過ごし方などをお話しいただいた
- ・ご利用者同士で、今困っていること、将来への不安などを話し合える場を設ける予定でしたが、実施にはいたりませんでした
- ・今後は安心して楽しめる居場所に加えて、役割ややりがいをもてる場となるよう考えていきたい

事業計画

【従事者人数】 絆会員 27人

【実施日】 月～金曜日 年間 2,500件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 30人

2025年度 目標

「そうだね」が合言葉

相談支援（相談支援センター 絆）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：障がい者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく特定相談支援事業・児童福祉法に基づく障がい児相談支援事業

【実施場所】 東浦町及び近隣市町のご利用者宅 及び 地域たすけあいセンター 絆

事業概要

障がいのある方が安心してその方らしく生活するために、悩みや困りごとの相談に応じます。必要な障がい福祉サービスの情報を提供し、利用につなげ、つながった先の支援者とともにご利用者をサポートします。

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 5 人(+1 人)

【実施日】 月～金曜日 622 件(+186 件)

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 144 人(+15 人)

【事業収益】 7,957,945 円(+2,268,049 円)

2024 年度 目標

～その人らしさを発揮できる支援を～

チーム（きずな・支援者間）で相談！ 困りごと、
課題を整理する力をつけよう



活動内容・成果・残された課題

- ・相談支援専門員が 4 名となり、積極的に新規の受け入れを行うことができた
- ・現任研修を経て機能強化型サービスが算定できるようになった
- ・良い関係を築くために、ご利用者や支援者と直接話をするを大切に支援した
- ・チームで日頃からコミュニケーションを取ることで、一人で抱えず、お互いの困り事を相談したり、状況を確認し合ったり、客観的な視点を持ち考えることができた
- ・福祉サービスと繋がるだけでは解決できないご利用者の困り事について、関係性を保ちながら支援する必要性を感じている

事業計画

【従事者人数】 絆会員 5 人

【実施日】 月～金曜日 年間 700 件

【受益者】 東浦町及び近隣市町の方 160 人

2025 年度 目標

五感で聴き、関係性を築く

居場所事業

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 さをり工房 あんきにきて家(さをり織り)

地域たすけあいセンター絆 風ハウス(コミュニティカフェ・お茶を楽しむ会)

事業概要

どなたでも利用できる居場所として、【さをり織り教室】【風喫茶】【お茶を楽しむ会】を定期開催し、絆を身近に感じてもらう

事業報告

※()内は前年度比

さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 2人(±0人)

【実施日】 火・木・土曜日 年間 113日(+3日)

【受益者】 絆会員 延べ 721人(▲39人)

【事業収益】 937,333円(▲2,920円)

コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 9人(±0人)

【実施日】 第3金曜日 年間 11日(▲1日)

【受益者】 地域の方 延べ 453人(▲15人)

【事業収益】 86,900円(▲6,460円)

お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 3人(±0人)

【実施日】 月1回 水曜日 年間 10日(▲2日)

【受益者】 地域の方 延べ 353人(▲75人)

【事業収益】 80,775円(▲9,155円)

2024年度 目標

出会いをつなげる

活動内容・成果・残された課題

【さをり織り】

- ・作品展や日々の体験会等により、新たにさをり織りを楽しむ人が増えてきた
- ・さをり織りを通して、住民同士の交流が図られ、気づかいあえる楽しい居場所になっている

【風喫茶】

- ・お菓子づくりや当日の接客を手伝ってくださるボランティアさん達のおかげで、月1回の楽しみな時間を設けることができた

【お茶を楽しむ会】

- ・ボランティアさんや、さくさくのご利用者が手伝ってくださることで、日常とは違う雰囲気でも菓子と抹茶を楽しむことができた

事業計画

さをり織り教室

【従事者人数】 絆会員 2人

【実施日】 火・木・土曜日 年間 110日

【受益者】 絆会員 延べ 750人

コミュニティカフェ 風喫茶

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 9人

【実施日】 第4金曜日 年間 12日

【受益者】 地域の方 延べ 470人

お茶を楽しむ会

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 3人

【実施日】 月1回 水曜日 年間 12日

【受益者】 地域の方 延べ 420人

2025年度 目標

出会いを楽しむ

お茶会

毎月1回 風ハウスにて開催



さをり織り作品展 ~2024~

今年はたて糸のさをり風かすり



風喫茶

毎月1回 風ハウスにて開催



毎回楽しみ!
滝川さんの
ケーキや和菓子

福祉拠点普及促進コーディネーター事業(ふくし課委託)

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、ラソプラザ等

事業概要

地域住民が担い手として活動する場の確保、人材育成、居場所に関する相談・研修・啓発・協議体への参加協力を行う

事業報告

※()内は前年度比

【従事者人数】 絆会員 2 人(±0 人)

【実施日】 通年随時

【受益者】 地域の方

【事業収益】 6,905,000 円(+5,000 円)



2024 年度 目標

今ある活動拠点の情報共有と、居場所の少ない地区へのアプローチ

活動内容・成果・残された課題

- ・町内や他市町の「居場所に関する相談」に応じ、見学、研修の依頼等にも対応した
- ・『食を通じた居場所のゆるい情報交換会』を開催し、『子ども食堂』『地域食堂』を定期的に開催する団体の代表者さん達と、積極的に意見交換、情報共有を行った
- ・総合ボランティアセンターの10周年企画に協力して『グリーン・ラソ』を開き、控室や休憩場所、交流の場として、ドリンクや食事、おやつを提供した
- ・緒川コミュニティの盆踊り大会で『盆カフェ』、コミュニティまつりで『きずなカフェ』、新春カラオケ・餅つき大会で『新春カフェ』を開催し、地域住民の居場所として交流の場を提供した
- ・多世代がもっと気軽に利用できる居場所を模索し、住民を巻き込んだワークショップにより「一箱本棚オーナー制度」を計画。愛知淑徳大学の学生にデザインしてもらった本棚を、学生及び地域住民延べ160人に協力してもらいながら、製作することができた
- ・今後も多世代・多職種を巻き込んだワークショップを継続し、今ある居場所の充実、活躍の場の更なる創出、新たな居場所の開発を考えていきたい

事業計画

【従事者人数】 絆会員 2 人

【実施日】 通年随時

【受益者】 地域の方

2025 年度 目標

多世代が参加しつながれる居場所の開拓

常設居場所事業（地域の縁側 グリーン・ラソ）



【事業名】特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】地域の縁側 グリーン・ラソ

事業概要

0～100歳、どなたでも利用できる、自分らしく活躍できる居場所を提供するとともに、絆を知っていただく機会を設ける

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】絆会員・ボランティア 153人(▲9人)

【実施日】月～金曜日 年間 290日(+2日)

【受益者】地域の方 延べ 13,143人(+1,998人)

【事業収益】3,727,526円(+621,680円)

2024年度 目標

出会いをつなげる



活動内容・成果・残された課題

- ・当番やシェフさんの意見交換会を開催。皆さんの要望や意見を伺い、改善を図りながら運営することができた
- ・『フォーク酒場』を『音♪カフェ』に名称変更、参加費の見直し、夜の開催を昼間に変更など、参加者の状況を見ながら柔軟に形を変え、継続することができた
- ・『夜カフェ』は、東浦町唯一の酒蔵『原田酒造』と繋がり、日本酒のアドバイスを受けながら進めることができた
- ・グリーン・ラソ『ひと・はこ文庫』の立ち上げに伴い、愛知淑徳大学の学生さんと繋がり、地域住民を巻き込んだワークショップで本棚を完成させることができた
- ・『ひと・はこ文庫』が、多世代の出会いや繋がりきっかけになるよう、SNSを使って周知していきたい
- ・ランチが好評すぎて20分～30分で50食が完売する日もあり、シェフさんの「ゆっくり楽しめない」という苦情にも繋がった。今後も、誰もが活躍し、楽しめる居場所を模索していきたい

事業計画

【従事者人数】絆会員・ボランティア 160人

【実施日】月～金曜日 年間 300日

【受益者】地域の方 延べ 14,000人

2025年度 目標

出合いを楽しむ

常設居場所事業（地域の縁側 ラソプラザ）

【事業名】 特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域の縁側 ラソプラザ



事業概要

食を介して、地域の方が気軽に集まれる居場所を提供するとともに、ボランティアとしてどなたでも自分らしく活躍できる場を設ける

事業報告

※（ ）内は前年度比

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 86人(▲36人)

【実施日】 火～金曜日 年間 193日(▲11日)

【受益者】 地域の方 延べ 16,742人(+2,288人)

【事業収益】 3,894,372円(+317,805円)

2024年度 目標

出会いをつなげる



活動内容・成果・残された課題

- ・地域の皆さんの「お米が食べたい」の声で始めた『おむすび+』で、午後からの利用が増えた
- ・毎週、開催の『歌声喫茶』は人気が高く、30名を超える日も多い。また、月に一度の『己書幸座』も参加者が増え好評だった
- ・月に一度の『ラソ市』は、地域の皆さんからの寄付物品が定着。毎回50人以上の賑わいで、つながりも増え、オール100円ながら収入も安定してきた
- ・何も無い木曜日は、来場者が少ない。また、利用したことがない人にも関心を持ってもらえるよう、新たな取り組みを考えていきたい。
- ・子どもたちの居場所である『宿題塾』も、多い日は40名程の利用となる。ただ無料で行っているため、お菓子やジュースが全て持ち出しとなり、財政的には厳しい。企業への働きかけや、見守りボランティアの開拓が課題である

事業計画

【従事者人数】 絆会員・ボランティア 90人

【実施日】 火～金曜日 年間 200日

【受益者】 地域の方 延べ 17,000人

2025年度 目標

出会いを楽しむ

ふれあいマーケット・絆まつり

【事業名】 その他の事業：特定非営利活動に係る事業：地域ふれあい事業

【実施場所】 地域たすけあいセンター 絆、地域の縁側 グリーン・ラソ、地域の縁側 ラソプラザ等

事業概要

- ・季節の野菜や手作り品の販売、リサイクル品の寄付を通して、活躍できる・楽しめる場を提供する
- ・絆まつりなどを通して、地域の方と交流を図り、絆を知っていただく

事業報告

※()内は前年度比

【実施日】 ふれあいマーケット・縁側ラソ市：月～金曜日、ラソ市：第3木曜日、

絆まつり：2024年9月7日 【受益者】 地域の方 【事業収益】 1,384,890円(+558,410円)

2024年度 目標

物品整理と絆まつりの復活



活動内容・成果・残された課題

- ・物品整理が追い付かず、一時置き場にしている事務所の一角がすぐに雑然となってしまった。置きやすい、整理しやすい棚に見直す等、抜本的な対策が必要である。
- ・『絆まつり』が再開でき、地域の方にも参加し楽しんでいただくことができた。(参加者約200名)
- ・グリーン・ラソで行う常設の『縁側ラソ市』は、整理や出し入れの手間を考え、衣類の販売のみに変更したが、かえって利用してくださる方も増え、売り上げも安定している。
- ・ラソプラザ前で毎月1回行う『ラソ市』は、多くの住民の方の楽しみとして定着している。物品の運搬や準備等を積極的に手伝う人も増えており、収入も安定している。
- ・季節の野菜やパンの販売も好評で、買い物の上に、絆やグリーン・ラソを訪れる人もいる。

事業計画

【実施日】 ふれあいマーケット・縁側ラソ市：月～金曜日、ラソ市：第3木曜日、まつり模擬店：随時

【受益者】 地域の方

2025年度 目標

整理しやすい衣装ケースや棚を揃え、作業効率が上がるように環境整備を整える。

II. その他の事業

物品販売に関する事業

地域ふれあい事業に移行

Ⅲ. 委員会活動

感染症対策委員会

【委員長】山本 浩貴 【委員数】6名 【開催回数】年間10回

2024年度 目標

- ・ 感染情報を速やかに共有し、適切な対応で感染拡大を防ぐ
- ・ 感染症に対する意識を高める

活動内容・成果・残された課題

- ・ コロナ・インフルエンザ感染者や発熱等の情報を集約し、事業所内での情報共有を行った
- ・ 感染症 News を新設し、コロナウイルス等の感染状況や、その時々に関する様々な情報をタイムリーに発信した（年間12回発行）
- ・ 感染症に関する研修（年2回）、調理スタッフ・居場所の喫茶やランチ当番への検便（年2回）、害虫駆除対策（年1回以上）を行った
- ・ 感染症マニュアルの改訂に着手したが、すべての見直しは行えなかった



2025年度 目標

- ・ 引き続き感染情報の共有と適切な対応に努め、感染症の拡大を防ぐ
- ・ 感染症マニュアルを整備し、周知する

ここ de キャッチ委員会

【委員長】大木 久美子 【委員数】6名 【開催回数】年間11回

2024年度 目標

- ・ チェックリストを活用し、基礎的な虐待防止に関する情報を発信し、職員全体の意識の底上げを図る
- ・ 身体拘束実施に際する書類を整備し、正しく活用できるよう周知をする

活動内容・成果・残された課題

- ・ 前年度の反省を踏まえ、答えやすいチェックリストを作成し、年3回配布した
- ・ スマホでの回答率が低かったため、再度紙面で配布した。チェックリストの配布方法は今後の検討課題である
- ・ 各部署で同意書の必要なご利用者をあげ、書類に署名をしてもらった

2025年度 目標

- ・ 虐待防止や身体拘束廃止についての知識を更新する
- ・ 困りごとは一人で抱え込まないように、チェックリストを通して現場の声を聴く

チャレンジアップ委員会

【委員長】 富田 真理子 【委員数】 5名 【開催回数】 年間6回

2024年度 目標

受けてたい!聞きたい!! 身に付けたい研修で参加率アップ

活動内容・成果・残された課題

- ・ 全体研修の内容に応じて、開催時間を変更し、できるだけ多くの方に参加してもらえるようにした
- ・ 外部の研修も積極的に情報提供し、幅広い分野の研修や講演会への参加を促した
- ・ より参加しやすい（参加したいと思う）研修の内容や時間設定を目指す必要がある

2025年度 目標

『学ぶって楽しい♪』～意欲を引き出す研修を目指します～

防災委員会

【委員長】 望月 真理 【委員数】 6名

【開催回数】 会議 11回, 避難訓練 2回, 活動者安否確認訓練 12回, 研修 4回, 備蓄品の確認 1回
危険個所の確認 1回, 通所ご利用者の緊急連絡先確認 1回

2024年度 目標

災害発生時に対応できるよう、研修参加率を上げる

活動内容・成果・残された課題

- ・ B C Pの年間計画に沿って活動を行った
- ・ 簡易トイレ体験、炊き出し体験（アイラップでご飯を炊く）・防災グッズの展示・B C P研修の実施
- ・ 訪問系ご利用者の緊急時支援対応度の再確認を行う
- ・ 被災することを自分事と考えることができよう、実践的な研修を行っていきたい

2025年度 目標

防災に興味を持ってもらおう



まつり委員会

【委員長】村瀬 文康 【委員数】7名 【開催回数】7回

2024 年度 目標

今年こそ絆まつりの再開！！

活動内容・成果

9月7日（土）に、念願の絆まつりを5年ぶりに開催。
約200名の方に楽しんでいただいた。

毎年9月上旬の開催であったが、暑さ対策が必要で、
開催時期の見直しが今後の課題。



2025 年度 目標

担い手も楽しめる絆まつりを開催！！

リスク管理委員会

【委員長】小銭 梢、奥田 路得 【委員数】5名 【開催回数】年間11回

2024 年度 目標

繰り返し事例の撲滅を図る（対策を活かす）

活動内容・成果・残された課題

- 『ひやり・はっと報告書』のフォーマットを改訂し、「なぜ？」を重点的に追求」することで、
どうして起こったのかを考えられるようにした
- 『ひやり・はっとc h』1～3号と号外2枚（爪切りについて・既存のルールについて）発行
- ミニ研修「事故発生又は再発防止に関する研修」3/12開催
午前9名、午後11名参加。2部制にすることで、午前に出席した人が宣伝もしてくれた。スクリーンを使用し、とても見やすく良かった
- 『ひやり・はっと報告書』の電子化に向けて準備をしている
- 提出された「ひやり・はっと」について話し合い、委員会内でも対策を考え、提出者にフィードバックしていく（委員会の時にそれぞれ気になる事例を持ち寄り話し合う）

2025 年度 目標 【新委員長】奥田 路得

起こった「ひやり・はっと（事故）」を深掘りし、
対策を各部署に提案する

